

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103551		
法人名	株式会社アイ・エル・エス		
事業所名	グループホームありすの家2F		
所在地	長崎県長崎市椎の木町25番19号		
自己評価作成日	平成30年3月13日	評価結果市町村受理日	平成30年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成30年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

朝食、口腔ケアを済ませてから少しの休息を挟み、朝のラジオ体操を行います。利用者様の状態に応じて立ってされる方、座ってされる方それぞれですが、ほぼ全員の参加です。その後は職員と一緒に掃除を始めます。モップ掛けの担当や拭き掃除の担当などそれぞれ居室以外の場所も丁寧に掃除をさせていただきます。昼食までの時間、夕食までの時間は自室で思いのままに過ごされる方、リビングでゲームや手作業に参加される方など本人の気持ちを尊重して生活していただいています。利用者様一人ひとりできる事、得意な事を優先しながら私達はサポートしています。皆様の明るい声と笑顔がいつもホームにあふれている場所でありたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長崎市郊外の山手に近い、のどかな環境の中に当該事業所は位置しています。平成27年6月より現在の場所で事業を再開し、近隣より運営推進会議への参加やホーム見学など地域とのつながりやホームへの理解も徐々に得られるようになってきました。ホームの理念に基づき、管理者は目配り、気配り、声かけを重視した指導を一貫して行い、入居者の暮らしを最優先とした支援に努めています。現在は前代表が役職を交代し、入居者や職員と身近に関わりを持つことで理念の浸透をさらに図り、支援の充実につなげることができました。入居者それぞれの暮らし方や人生で大事にしてきたことが日常生活の中で積極的に取り入れられ、職員はその人ができない部分のお手伝いに徹することに意識を持ち、支援に取り入れています。徐々に職員の世代交代が進む中で、現状のサービスをいかに維持向上していくか、職場環境を整えながら人材育成に努め、入居者の個性やその人らしさを支援していくことに熱心に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホームありすの家2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼の際に職員全員で理念を読み上げ、理念に沿ったサービスを目指し、職員と管理者が一丸となっている。	職員は入居者の気持ちや「できること、得意なこと」を優先し、その人らしい暮らしの実現に努めています。ホームが掲げた理念に基づき職員間でコミュニケーションを図り、何のために支援するのか、大切にしたいことは何かを振り返りながら、理念の浸透及び実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として、自治会に加入している。運営推進会議を通じて、地域の皆様の理解を深めることができているので、行事等への参加を声掛けしていきたい。	ホームは地域との顔が見える関係づくりを大事に捉え、地域より見学の受け入れや地域が抱える課題を共に支える姿勢で関わっています。運営推進会議では「自治会サロンにどうすれば人が集まるか」をテーマに話し合い、職員が地域に向け認知症に関する講話を行う準備が始まっています。ホームが地域の介護拠点として、活動が広がる様子が窺われます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に民生委員だけでなく、地域の方が来られるようになり、介護相談を受けている。ホームとしてできることはどんどん協力していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月間の生活風景をビデオを観ながらお伝えし、ホームへの理解に繋げている。会議には毎回利用者様に参加していただき、地域の方とお話していただいている。	会議には民生委員を介して地域からの参加も増えており、ホームへの理解や運営の透明性が図られています。地域住民からは在宅で介護を担う悩みなどホームの特性を生かした意見交換の場にも活用されています。避難訓練の実施報告では水消火器を使った訓練についてお尋ねがあり、今後地域住民と共に消火訓練への誘いもなされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員の方に来ていただくことでホームの実情や取り組み等をお伝えすることができている。	地域の福祉事業における基本方針に基づいた支援に努め、運営推進会議で包括職員の助言を得ながら協力関係の構築に努めています。入居者の暮らしに支障が生じた際や支援内容について関係機関に課題を投げかけ、福祉に関する理解を深める機会に繋げています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないことを原則に介護にあたっている。	入居者の心身の状況に応じた部屋の選定を行い、その方から聞こえる杖の音や道具を触る音で入居者の動きを察知し拘束のない生活の実現に努めています。入居者それぞれに抱く不穩のスイッチを理解し、日頃の関わりや言葉のかけ方によって不安を解消できる対処方法を常に検討しながら、入居者本人が笑顔で過ごせる時間を大切にしたり関わりを努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解、遵守に向けた取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を学んだ者が機会があれば職員への説明を行っている。制度を利用している利用者様が入所されたことで理解を深める良い機会となった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、契約書、金銭管理や終末期の対応について説明し、疑問点や不安事にはその場で答え、理解納得していただいた上で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族等からの意見や要望があった場合は早急に話し合い、対応している。また、ご家族の訪問時には常に何でも言ってもらえる雰囲気づくりを心掛けている。	職員は、入居者とゆっくり関わることを意識し、明るい笑顔と親しみやすい雰囲気を中心に接するよう努めています。入居者や家族への説明を丁寧に行うことで生活への不安を取り除き、職員が本人や家族の身近な存在として意向を確認しながら望む暮らしの実現に向け取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は日頃から話しやすい関係づくりを大切に、意見や提案があればすぐにできるようにしている。常に職員の意見を聞きながら決定をしている。	建物の構造上、入居者の状況や職員間でのコミュニケーションの困難さに悩みがあったことから、職員が業務の仕法を検討し、日常的に入居者の理解や職員間の意思疎通の充実が図られました。職場の風通しもよく、現在、新規入居者との生活が間もないことからこまめにミーティングの機会をつくり、対応方法や意向など情報を職員間で共有しながら働きやすい職場作りに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者や管理者は職員と一緒に利用者様と過ごし、職員の悩みを把握して解決するよう努めている。また、働きやすい職場づくりを第一に考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を基に職員が知識や技術を習得できるようにしている。職員一人ひとりの力量を把握し、個人的に指導することもある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等での交流はあるが、ネットワークづくりには至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前は必ず面談を行い、本人の意向や現状を十分把握したうえで本人と向き合っている。最初の段階で本人が安心できる職員を把握し、慣れるまでのサポートを担当している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの相談やホーム見学の段階で困っている事や不安に感じている事、これまでの経緯について十分に聞き、入居後も密に連絡を取り合うことで信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人やご家族から情報収集を行い、何が必要かのご相談を受けている。入所とはならなかった際には、居宅介護支援事業所や地域包括支援センターへ繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日の中で時間の流れに合わせて利用者様と共に過ごせるように寄り添う関係を保っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状況報告を行い、情報を共有している。また、ホーム便りにて施設での様子を知っていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の訪問を大切に考え、入所後も継続していただけるよう支援している。	入居以前からの関係性が入居後も継続できるよう職員は意識を持って関わっています。その方が心の支えとしてきた信仰心を支援し、職員が本人と共に仏具の手入れや拝礼の機会を大事に捉え関わっています。また家族の意向を確認しながら週末毎に自宅への外泊の支援も行われるなどその方の思いに沿った支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関わりが円滑になるように、職員が見守り、中に入ることで調整をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も電話等で本人の様子を尋ねたり、ご家族との付き合いを継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	重度化し、自分の思いを口にすることができない方もおられるが、日々の関わりの中で時折発する言葉や行動、表情から思いを汲み取っている。	職員は入居者の好みや希望を職員が決めつけないよう入居者の意向や暮らし方を尊重し、顔を見てゆっくり話を聞きながら思いに沿った支援に努めています。その方の生活リズムや趣味活動への支援など、ひとり一人に沿った暮らし方の実現に努め、職員は入居者のできないことのお手伝い役に徹しながら生活の中で生きがいを見つけることができるよう支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族への聞き取りだけでは把握できない生活歴を普段の何気ない会話の中から聞き取ったり、ご家族の訪問時に本人と一緒に話をしながら情報を得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中で利用者様の行動や発言の気づきを記録している。また、小ミーティングをすることで非常勤の職員にも情報の伝達ができている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者主体の暮らしができるよう、普段から関わりのある職員からは細かに情報を収集し、介護計画の作成に活かしている。	職員は家族の面会時に近況報告をする中で「こうあったらいいのにね」の言葉を聞き逃さないようにし、本人や家族からの意見をくみ取りながら介護計画の作成に繋げています。職員は日々の出来事をミーティングで話し合いながらその方の持つ力を確認し、ゆっくり見守ることで可能性を引き出す支援に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の個々の記録や連絡ノート等から情報を収集し、見直しを行うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態だけではなく、ご家族の状況の変化にも配慮し、要望に沿ったサービスが受けられるよう、ホームとしてできる対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々の協力を得ながら、利用者、職員共に生き活きとして過ごすことができている。民生委員の働きかけで地域の皆様にホームを知っていただけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からのかかりつけ医での医療を希望される場合は、基本的に家族対応をお願いしているが、倍位によっては職員が受診介助を支援している。又、ホームの協力医により定期的な往診、緊急時は24時間対応していただいている。	職員は入居者の身体状況を家族にこまめに相談し、今後の方針や専門医への受診など小さな変化にもすぐに対応できるように努めています。2週間に1回協力医による往診を受けながら、急変時や症状への対応に努めています。専門医受診の際はサマリーを家族に託し、昼夜の状況を医師に伝えながら内服の調整や症状の緩和に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護職員がおり、看護の面での相談をしている。また、週1回主治医の往診に看護師が訪問しているので、相談できる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必要な情報提供を行うと共に、早期退院に向けて、医療機関やご家族と密に連絡を取り合い、カンファレンスにも職員が参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の判断により医療処置及び医療行為を必要とし、ターミナルと判断された場合はホームでの介護が困難な為、医療機関への入院又は退所となることを入所前に説明し、理解をいただいた上で契約をしている。	現在ホームでの看とりの実施はなく、終末期における治療方針の相談ごとに医師や家族と話し合いの機会を持ちながら今後の対応を検討されています。家族へは今後予測される体調の変化を丁寧に説明し、本人や家族の意向を確認しながら現状の身体状況に応じた医療機関や施設への入所を支援しています。今後は職員の体制や受け入れ環境を整備し、臨機応変に対応できる体制の整備や取り組みが望まれます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対処方法について、マニュアルで周知徹底を図り、より実践力をつけていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	職員全員、利用者全員と一緒に実践に即した避難訓練を行っている。定期的に水消火器を使用した消火訓練も行っている。階段の昇降を普段から行い、訓練をしている。自然災害時の避難場所へ職員膳全員が訪れ確認している。	定期的な避難訓練が入居者にも浸透し、訓練の際にも入居者が自ら口元に手を当て避難姿勢がとれるようになりました。今年度は消防署より新しい形の避難訓練の提案があり、突発的に動くことの難しさや新たな課題も見つかりました。日頃から2階の入居者は階段を利用することで脚力の維持を図り、1階の職員も日常的にフロアを行き来することで日頃関わりが薄くなりがちな入居者の名前や心身の状況を把握しながら、臨機応変に対応できる体制づくりに努めています。	今年度、風水害の避難訓練に取り組み、ホーム周辺の地形や一時避難場所の確認、検討に取り組みしましたが、現在、災害計画の策定に至っておらず、具体的な対応について整備が不足している状況にある様子が窺えました。入居者の避難誘導方法を再度確認し有事の際の体制作りが望まれます。また地域と共に避難訓練や消火器の使い方など連携しながら入居者の更なる安全の確保への取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活感や今までの人生を知ることによって会話の内容や対応の仕方を行っている。名前の呼び方も大切にしている。	入居者とはゆとりを持った関わりを大事にし、業務の途中でも一旦手を止め、入居者との関わりを優先に考えながら入居者に寄り添った支援に努めています。職員は何のために、誰のためにいるのかを理解し、優先すべきことはどれなのかを意識しながら職員同士のチームプレイで支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の声を聞きながらも職員と共に考え、ご自分で決定していただけるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一方的な押し付けではなく、日々の会話や利用者様の生活ペースを理解して声かけを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日同じ服装ではなく、その方が持っておられる服を整理しながら季節に準じた身だしなみやおしゃれに気を配るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好き嫌いな食材を知るとともに、味付けや盛り付けなどにも工夫している。又、季節を感じていただけるメニューも作成している。	入居者の身体状況に応じて食器が選定され、器の深さや握り心地など、できるだけ本人の負担が少ない状態で自力摂取できるような配慮がなされています。入居者それぞれができる範囲のお手伝いを担い、人には譲れない仕事だと責任感を持って片づけを担う様子も確認できました。健康を維持し親しい仲間と共に生活の中でその人らしい暮らしの支援がなされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の摂取量を記録し、食事以外にも午前と午後に水分補給の時間を設けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは一人ひとりの声掛けと見守り介助を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助の必要の有無によって、見守りや声かけを行っている。時間を確認しながら排泄の声かけをしている。	自力でトイレでの排泄が可能な入居者が多く、職員は本人の自尊心に配慮した距離からの見守りに努めています。本人が自分の力でできることを見守りながら、パット交換が自力でできるかの確認の声かけをし、失敗した際にはさりげなく更衣の手伝いに移れるよう見守り支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように排泄のチェック表を見ながら対応している。腸を動かす運動や歩行運動を日々取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の体調や気持ちを考慮しながら入浴をしていただいている。できるだけ職員はサポートするのみに留めているが、清潔はきちんと保てるようにしている。	台所と浴室が隣接している構造となっており、職員は必要な場面で介助の応援を頼みながら、入居者が安心安全にシャワーチェアや浴槽への移乗移動ができるよう努めています。入浴の際は入居者の羞恥心に配慮し、本人が同姓介助の希望があれば介助者を交代しながらその方に応じや入浴方法での支援に努めています。浴室は丁寧な手入れによって清潔が保たれ、気持ちよく入浴ができる様子が窺われました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は21時としてはいるが、居室でテレビを観られる方、リビングにて談笑される方等、お茶や紅茶を飲んでいただきながらゆっくり過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の服薬内容を理解した上で一人ひとり手渡しし、服薬確認を必ず行っている。状態の変化がある時は主治医の指示を受け、職員全員に伝達する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様が得意とされている事、好きな事を知り、職員と一緒に作業やゲームに参加していただいている。毎日、朝のラジオ体操も皆様参加されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や友人との外出は、利用者様にとって大変良い結果が見られている。家族との協力も大切な事なので面会以外にも外出していただけるように声掛けをしていきたい。	入居者は職員と気軽に買い物に出かけられることができる環境にあり、外出の際は職員と一緒に洋服を選びながら楽しみを持って外出することができます。職員が母の日の贈り物にと入居者の好みに応じて手作りした巾着に、それぞれで手回り品を準備しながら、住み慣れた地域や季節の祭りに出かけ町並みや雰囲気を楽しむ機会となっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を手元に持っている利用者様が数名いる。外出した時に自分の物を買ったりする時には自分で支払いをしていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の要望があればいつでも電話や手紙の交流を行っている。また、年賀状や暑中見舞いなどを親しい方へ出していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間としては玄関には季節の花を置いたり、リビング・食堂には利用者様と一緒に作成した壁飾りを月ごとに変化を持たせている。	入居者が住み慣れた街並みが一望できる大きな窓からは自然な明かりや心地よい風が取り入れられ、家庭的な雰囲気の中で自宅での生活に近い暮らしができるよう配慮されています。入居者同士で少しずつ作成された壁面飾りは懐かしさや少しせつなさも含んだ大人のモチーフとなっており、四季折々の情景が丁寧に表現された趣のあるものとなっています。壁面飾りがホーム内の雰囲気に温かみを添え、引き立て役となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	踊り場にソファや観葉植物を置いてあり、その場所で利用者様同士や職員と話しながらゆっくり過ごせるような空間を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の部屋づくりでは利用者様の以前から使っていた物やなじみの物を置く事で居心地が良く過ごせるようにしている。	居室には自宅からの持ち込みが多く、実家と嫁ぎ先の遺影やキリスト教信仰の十字架が並ぶなどその方が大事にしてきたものを身近に置き入居以前の暮らしが現在も継続できるよう配慮されています。入居者の居室にはそれぞれで思い出の詰まった大事なものに囲まれ、その方が穏やかに過ごせる環境が整えられています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の動線を考慮して家具の配置を工夫したり、トイレや洗面所までに歩行の邪魔になる物がないようにしている。		